

〈分類1〉 学校教育の充実

学校教育を「ひとづくり」の基礎と位置づけ、児童・生徒が快適に学ぶことができる教育環境を整えるとともに、社会の動静や子どもたちの実態を把握し、一人ひとりの個性や可能性を最大限に生かし生きる力と夢を育む教育を目指します。

【施策】

- ・快適に学ぶことができる教育環境の整備・・・・・・・・・・P 5
- ・豊かな人間性と社会性をはぐくむ教育内容の充実・・・・・・・・P 8
- ・地域に開かれた学校の実現・・・・・・・・・・・・・・・・・・P 9
- ・快適な教育基盤の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・P10
- 総括的評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・P11

【施策】

◇ 快適に学ぶことができる教育環境の整備

【主な事業】

(1) 五戸小学校改築事業

点検	概要	五戸小学校の校舎及び体育館の老朽化と耐震化対策のため、校舎、体育館の改築工事を行う。完成は、五戸中学校学区の小学校統合にあわせて平成25年度末とする。 平成23年度に実施設計を実施し、24・25年度に改築工事を実施する。		
	計画	校舎及び体育館の竣工	実績	校舎及び体育館の竣工
評価	成果	改築工事は、計画どおり平成25年度末において、校舎及び体育館が竣工し、統合に向けた学校施設の整備をすることができた。		
	課題等	外構工事に併せて敷地内の改修が必要な箇所も改修するようにする。		

(2) 学校施設維持管理事業

点検	概要	児童生徒が安全で快適な環境で教育活動ができるように、各学校からの要望により、学校施設の改修、修繕を行う。		
	計画	・各学校の緊急に必要となる修繕料を予算措置	実績	・修繕料の予算の範囲内で修繕を実施
評価	成果	教育委員による学校訪問を行い、各学校の要望を把握することで、修繕計画をたて、順次修繕を実施した。		
	課題等	学校施設維持管理については、事業費の大きい工事の十分な予算の確保ができないために、学校からの要望に対して迅速で十分な対応ができていない状況となっているので、ある程度の規模の改修等については、年次計画を作成し、計画的な予算措置を財政当局に要望する必要がある。		

〈分類1〉 学校教育の充実

(3) 小学校統合事業

点検	概要	<p>町内の小学校において、児童数の減少により複式学級が複数出てきたため、「五戸町立小学校統合計画」を策定し、学校統合により複式学級を解消し、より良い教育環境を実現する。</p> <p>五戸中学校学区の蛭川小学校、豊間内小学校、南小学校を閉校し、平成26年4月に五戸小学校に統合し、開校式を行う。</p>	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> 五戸中学校学区小学校統合準備委員会の開催 五戸中学校学区3小学校の閉校式の開催 	実績
評価	成果	<p>五戸中学校学区の小学校統合では、統合に関する統合準備委員会の協議及び閉校式が終了したことにより、より良い教育環境の構築が計画どおり進められた。</p>	
	課題等	<p>統合に伴いスクールバスがコミュニティバスを利用することになったため、児童の乗降の間違いがないように十分な指導をする必要がある。</p>	

(4) 特別支援教育支援員配置事業

点検	概要	<p>様々な障害を持つ児童生徒に対して、学校生活上の介助や学習活動の支援などを行う特別支援教育支援員を必要な学校に配置し、児童生徒の教育の充実を図る。</p>	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> 小学校3校、中学校1校に合わせて4人の支援員を配置 	実績
評価	成果	<p>特別支援教育支援員を必要な学校に配置することで、教員の負担を軽減することができた。</p>	
	課題等	<p>特別支援教育支援員は年度途中で増員配置し、ほぼ支援員を必要とする学校へは配置されが、まだ各校の希望にすべて応えられていない。</p> <p>教育環境の充実と教員の負担を軽減するためには、支援員配置を必要とする学校へは、状況に応じ複数人数配置を考える必要がある。</p>	

〈分類1〉 学校教育の充実

(5) 学校支援地域本部事業

	概要	<p>学校の要望に応じて、教育活動を地域住民のボランティア活動で支援する体制をつくり、学校で手が回らない部分を手伝うことで教育環境の整備や教員・地域住民が子どもたちと向き合う時間を増やし、地域の教育力の向上を図る。</p>	
点検	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校2校、中学校1校に学校支援センターを設置する。 ・学校支援コーディネーターを5人配置し、学校とボランティアの調整に当たる。 ・ボランティア活動日数 360日 	<p>実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五戸小学校、切谷内小学校及び倉石中学校の3校に学校支援センターを設置した。 ・3校に計5人の学校支援コーディネーターを配置し、学校とボランティアの調整に当たった。 ・プール授業補助や図書室の整理など学校の要望に沿って地域住民が、ボランティアで支援を行った。 ・ボランティア活動日数 144日
評価	成果	<p>地域住民のボランティアにより、学校の教育環境の向上と教師が児童生徒に向き合う時間を増やすことができた。</p> <p>図書室及び図書の整備により、読書に関心を持つ児童・生徒が増加した。</p> <p>学校支援コーディネーター・ボランティアが活動するようになり、学校が保護者や地域住民が行きやすい場となってきた。</p>	
	課題等	<p>当事業に取り組んでいない学校へもPRをして、多くの学校で実施していくことが必要である。</p> <p>PTA活動等で学校支援に取り組んでいる場合もあるので、学校側と連携を図り事業を遂行する必要がある。</p>	

【施策】

◇ 豊かな人間性と社会性をはぐくむ教育内容の充実

【主な事業】

(1) 語学指導外国青年招致事業

点 検	概 要	国の語学指導外国青年招致事業（JETプログラム）を活用して、語学指導助手（ALT）となる外国青年を招致し、小・中学校で英語授業の補助をしてもらうことで英語教育の充実を図る。また、国際理解教育の補助をすることで諸外国との相互理解を増進する。	
	計 画	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・人数 3人 ・配置校 9校 ・学校教育以外での英語指導の実施
評 価	成 果	外国青年によるALTの配置により、小中学生が生の英語に触れることで英語教育の充実を図ることができた。 また、ALTが公民館講座の英語講師として講座を行うことで、町民との交流も図られた。	
	課 題 等	学校統合により平成26年度から学校数が7校になるため、一層のALTの効果的な活用の検討が必要である。	

【施策】

◇ 地域に開かれた学校の実現

【主な事業】

(1) 学校評議員事業

点 検	概 要	学校運営に関し、保護者や地域住民の意見を反映するとともに、協力を得ながら子どもたちの健やかな成長を担うことができる学校運営を行うため、各学校に5名以内の学校評議員を置き、学校運営に参画してもらう。		
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校評議員を委嘱 ・学校評議員会議開催回数 21回 ・学校評議員の意見の反映数 21件 	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校に学校から推薦された3～5名の方を学校評議員として委嘱した。 ・学校評議員会議開催回数 21回 ・学校評議員の意見の反映数 13件
評 価	成 果	各学校では、校評議委員から意見を聴取する会議を1～3回開催し、出された意見についても各学校で概ね2件は学校運営に反映しており、地域に開かれた学校を目指す運営が行われている。		
	課 題 等	学校評議委員から出された意見により改善されたことなどを、各学校から学区住民に知らせ、学校が地域に開かれていることを分かってもらうことが重要であるため、その周知方法を検討する必要がある。		

〈分類1〉 学校教育の充実

【施策】

◇ 快適な教育基盤の充実

【主な事業】

(1) 奨学資金貸付事業

点検	概要	五戸町出身の学生及び生徒で学習能力があるにもかかわらず、経済的理由により就学が困難な者に対して、学資を無利子で貸与して人材の育成を図る。償還期間は、1年据置後から貸与期間の2倍の期間以内とする。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・新規貸与者数 <li style="padding-left: 20px;">高校生 3人 <li style="padding-left: 20px;">大学生等 25人 ・償還金償還率（現年度分） <li style="padding-left: 40px;">95% 	実績
評価	成果	経済的理由により就学が困難な者24名に対し、奨学資金の貸付けによる支援を実施し、人材育成を図ることができた。	
	課題等	奨学資金償還金の未納者が有り、未納額は、全体では減少傾向となっているものの長期間にわたって未納の人もいる。そのため、未納者と連絡を密にとりながら、未納者の経済状況などの把握をして返済に向けた取組みを継続的に行い、未納額の減少に努めることが必要である。	

(2) スクールバス事業

点検	概要	学校統合などにより、遠方から通学する児童生徒の通学手段として、学校と該当地区の間に通学のためのスクールバスを業者委託により運行する。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバス運行学校 <li style="padding-left: 20px;">南小学校、倉石小学校、五戸中学校、倉石中学校 	実績
評価	成果	スクールバスを計画のとおり運行したことにより、遠隔地の児童生徒が円滑に通学することができた。	
	課題等	スクールバスの乗車時間が長いとの意見が一部にあることから、よりよい運行経路について検討を行う必要がある。	

○ 総括的評価・・・学校教育の充実

◆ **快適に学ぶことができる教育環境の整備**としては、継続事業であった五戸小学校改築事業が、平成25年度末において校舎及び体育館が竣工し、平成26年度からの学校統合に向けた学校施設の整備を計画どおり実施することができた。学校施設維持管理については、教育委員による学校訪問等を行い、各学校の要望を把握し計画をたて順次修繕を実施したが、事業費の大きい修繕については、十分な予算の確保ができなため、学校からの要望に対し対応できていない状況となっている。大規模改修等については、予算措置を継続的に財政当局に要望を行い、理解を求めていく必要がある。

ソフト事業関連では、五戸中学校学区の4小学校統合により新五戸小学校とする統合準備委員会の協議及び閉校式が終了し、より良い教育環境の構築が進められた。今後は、統合のためコミュニティバスを利用し通学をすることとなった児童に乗降間違いや事故がないよう十分な指導をする必要がある。

特別支援教育支援員については、前年度の2倍の支援員を配置し、ほぼ支援員を必要とする学校へは配置されたが、すべての面で希望に応えられていない課題が残っているため、解決に向け協議を要する。学校支援地域本部事業は、教師の負担軽減や地域教育力向上に効果をもたらすことから、未実施校へのPRを行い、多くの学校で実施していくことが必要である。

◆ **豊かな人間性と社会性をはぐくむ教育内容の充実**としては、外国青年のALTの活用で、五戸町の子どもたちの国際感覚の育成が図られていることから、引き続き事業を推進していく必要があるが、小中7校に対するより効果的な活用について検討を要する。

◆ **地域に開かれた学校の実現及び快適な境域基盤の充実**については、各学校で評議委員から意見を聴取する会議を1～3回開催し、意見を学校運営に反映しており、地域に開かれた学校を目指す運営が行われている。

◆ **快適な教育基盤の充実**としては、奨学資金の償還金の滞納対策に力を入れる必要がある。また、スクールバス事業については、学校統合により拡大されているため、今まで以上に安全に留意した運営をしていく必要がある。

〈分類2〉 社会教育の振興

生涯学習社会形成に向け、町民一人ひとりの学習ニーズに対応できる学習環境の整備を図るとともに、「主体的に社会参加する町民」を目指し、総合的な社会教育の推進に努めます。

【施策】

- ・生涯学習に資する人材の育成・・・・・・・・・・・・・・・・P13
- ・多様なニーズに対応し得る生涯学習の体制づくり・・・・・・・・P14
- ・利用しやすい社会教育施設の整備・・・・・・・・・・・・・・・・P16
- 総括的評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P17

【施策】

◇ 生涯学習に資する人材の育成

【主な事業】

(1) ボランティア活動支援事業

点 検	概 要	町内の各分野における特技を持った人材を生かし、町民の社会参加の場を提供するとともに、地域ぐるみの教育を目指した「学校等支援ボランティアバンク」にボランティアで活動する人をリストに登録し、学校等からの求めに応じて人材を紹介する。 登録の更新は、2年ごとに行う。		
	計 画	・登録人数 50人 ・登録件数 23件 ・活動件数 2か所	実 績	・登録人数 44人 ・登録件数 22件 ・活動件数 なし
評 価	成 果	活動実績はなかったが、リストアップしておくことで地域の人材を把握しておくことができた。 なお、登録状況は25年度も昨年度と同様		
	課 題 等	活動をする新規の登録者が少ないため、年々登録者の高齢化に伴い登録人数が減少している。また、ボランティアの依頼が少ないことによって登録者のモチベーションが下がり、登録の更新をしない場合もあり、利用件数を増やすために他の事業との連携や活用が必要である。		

【施策】

◇ 多様なニーズに対応し得る生涯学習の体制づくり

【主な事業】

(1) 町民大学講座事業

点 検	概 要	生涯学習の一環として町民へ学習機会を提供することを目的に、年間を通じて各分野の講師を招いて講演を行う。また、施設見学などの移動講座も行う。	
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・開催講座数 10講座 ・開催回数 14回 ・受講者数 延べ500人 	実 績 <ul style="list-style-type: none"> ・開催回数 10講座 ・開催回数 13回 ・受講者数 延べ500人
評 価	成 果	講座では、受講生に対し、多様な分野からの講師による講義や、博物館等の様々な施設を見学することで学習の機会を提供することができた。	
	課 題 等	講座をより多くの方に受講してもらうため、町民の生涯学習に対するニーズの把握や、町民への広報など検討する必要がある。また、講師を町民の中からまねいたり、時間帯を夜間等に変更するなど、ターゲットや学びの変化も必要ではないか。	

(2) 公民館講座事業

点 検	概 要	町民が生涯を通して生きがいのある充実した生活を送ることができるよう、公民館において町民一人ひとりの学習ニーズに対応する多種多様な講座で、主に受講者が作成などを行う内容で学びの場を提供する。 講座は、年間を通して行う普通講座、2～3か月の期間で行う短期講座、川内・浅田・倉石の3地区の施設に出向いて行う移動講座がある。	
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・参加延べ人数 普通講座 2,026人 短期講座 160人 移動講座 45人 	実 績 <ul style="list-style-type: none"> ・参加延べ人数 普通講座 1,231人 (パッチワーク、ハンドクラフト、 絵手紙等9講座) 短期講座 157人 (PPバンドかご作り、かぼちゃ まんじゅう、和のスイーツつ くりの3講座) 移動講座 16人 (布ぞうり 1講座) (倉石地区受講希望者なし)
評 価	成 果	公民館講座は、幅広い年代の町民が受講しており、普通・短期・移動の3種類の多様な講座を開講することにより受講者のニーズに応えることができた。特に短期講座に希望者が多く定員に達した講座もあった。	

	<p>英会話講座では、「コミュニケーションが楽しく勉強になった」</p> <p>ハンドクラフトでは「毎回作るのが楽しみです」エアロビクスでは「日頃運動不足の私にはとてもいい講座でした」などの感想があり、次回も同じ講師との要望も多かった。</p>
課題等	<p>公民館講座では、地域の人材を講師として活用していくことも考えられる。</p> <p>普通講座の新規受講者の加入を促進するため、町民の学習ニーズを調査し新たな講座の開講も検討する必要がある。</p>

(3) 公民館情報紙発行事業

点検	概要	<p>公民館事業への理解と関心を深めるために、公民館事業の情報紙「おんこ」を作成し、自治会を通して毎戸配付や回覧をすることで、公民館の利用者数の増加を目指す。</p>		
	計画	<p>・「おんこ」の発行</p> <p>・年間利用者数 60,000人</p> <p>・年間利用件数 3,000件</p>	実績	<p>・年間6回の「おんこ」を発行した。</p> <p>・年間利用者数 61,361人</p> <p>・年間利用件数 2,500件</p>
評価	成果	<p>公民館情報紙「おんこ」を発行することで、公民館事業等を住民へ効果的にお知らせすることで、公民館利用者の利便性を高めることができた。</p> <p>平成25年度からホームページにも公民館情報紙「おんこ」を掲載することによって少人数ではあるが若い人が見て講座に申し込まれた方もあり、効果は少しずつあると思われる。</p>		
	課題等	<p>公民館情報紙「おんこ」と共に、ホームページでの情報提供も続けていくが、現状では、紙面以外での情報入手が困難な状況にある方のためには依然として情報紙としての役割も大きい。</p> <p>今後とも見やすい、解りやすい公民館情報紙をめざし、情報提供していく必要がある。</p>		

【施策】

◇ 利用しやすい社会教育施設の整備

【主な事業】

(1) 移動図書館事業

点 検	概 要	図書館から遠隔地のため、図書館に行って利用しにくい地域の人たちのために、自動車に図書を積み込んで各地区と小学校を巡回して図書の貸し出しをする。	
	計 画	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・地域巡回貸出冊数 1, 200冊 ・学校巡回貸出冊数 7, 300冊 <ul style="list-style-type: none"> ・月1回5箇所での地域巡回及び小学校6校での巡回を実施した。 ・地域巡回貸出冊数 1, 183冊 ・学校巡回貸出冊数 6, 660冊
評 価	成 果	移動図書館により、遠隔地域への図書貸出サービスが展開できた。また、地域を定期的に巡回することで、読書の推進が図られ、利用者の希望に応じた貸出をすることができた。	
	課 題 等	<p>学校巡回では、統合した五戸小学校を含めた学校巡回を実施するか検討の必要がある。(現在五戸小学校へは、団体貸出を実施中。)</p> <p>また、地域巡回では、昨年度の貸出冊数はほぼ計画通りとなったが、利用者の拡大が難しい現状は以前と変わらない。今後は、地域巡回の利便性を周知するとともに、より利用しやすくするための巡回場所や日時等の見直が必要である。</p>	

○ 総括的評価・・・・・・・・社会教育の振興

◆ **生涯学習に資する人材の育成**としては、町内の各分野における特技を持った人材を登録し、「学校等支援ボランティアバンク」として学校等からの求めに応じて人材を紹介するボランティア活動支援事業を実施しているが、ボランティアの依頼がなかったため、本事業のPRを工夫する必要がある。

◆ **多様なニーズに対応し得る生涯学習の体制づくり**としては、生涯学習の拠点である公民館を中心に、町民大学講座、公民館講座を開催しており、あわせて延べ1,900人以上の町民が受講している。今後は、一部の講座の時間帯を夜間や休日等に設定するなど、新規階層に向けた企画や、聴講したくても会場での受講が難しい町民のために、町ケーブルテレビを活用した自宅聴講について検討することも将来的に必要である。

◆ **利用しやすい社会教育施設の整備**としては、図書館に訪れることが難しい町民でも図書が借りられるように車で移動図書館事業として巡回している。地域巡回では、昨年度の貸出冊数はほぼ計画通りとなっているが、利用者の拡大が難しい現状であり、今後は利便性を周知するとともに、より利用しやすくするための巡回場所や日時等の見直しといえる。

〈分類3〉 スポーツの振興

現在あるスポーツ施設の利便性を高めるとともに、町民のニーズを把握し、多様で参加しやすいイベントの実施や老若男女の誰もが生涯を通じて気軽にスポーツを楽しみ、活力と感動を生み出す環境づくりを進めます。

【施策】

- ・ 利用しやすいスポーツ施設の整備・・・・・・・・・・P19
- ・ 誰もが気軽に参加できるスポーツ環境づくり・・・・・・・・P20
- ・ 町全体で取り組むスポーツ振興・・・・・・・・・・P22
- 総括的評価・・・・・・・・・・P25

【施策】

◇ 利用しやすいスポーツ施設の整備

【主な事業】

(1) スポーツ施設の管理事業

点 検	概 要	<p>ひばり野公園（陸上競技場、野球場、サッカー場、テニスコート、プール）、屋内トレーニングセンター、スポーツ交流センター及び倉石スポーツセンターの施設を町民のスポーツ活動の場として提供しており、町民が利用しやすい施設とするために、施設管理を指定管理者に委託している。また、利用者が安全に安心して利用できるように、施設の不良箇所の修繕を行う。</p>								
	計 画	実 績	<p>・屋内トレーニングセンター屋外仮設トイレ設置工事 ・施設利用者数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">ひばり野公園</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">53,000 人</td> </tr> <tr> <td>屋内トレーニングセンター</td> <td style="text-align: right;">36,900 人</td> </tr> <tr> <td>スポーツ交流センター</td> <td style="text-align: right;">8,700 人</td> </tr> <tr> <td>倉石スポーツセンター</td> <td style="text-align: right;">11,000 人</td> </tr> </table>	ひばり野公園	53,000 人	屋内トレーニングセンター	36,900 人	スポーツ交流センター	8,700 人	倉石スポーツセンター
ひばり野公園	53,000 人									
屋内トレーニングセンター	36,900 人									
スポーツ交流センター	8,700 人									
倉石スポーツセンター	11,000 人									
評 価	成 果	<p>ひばり野公園、屋内トレーニングセンター、スポーツ交流センター及び倉石スポーツセンターは、(公財)五戸町スポーツ振興公社に指定管理委託（平成21年度～25年度）をすることで、経費の節減ときめ細かな施設の管理及び利用者の利便性の向上を図ることができた。</p> <p>また、予定したトイレ設置工事、遊具やプールサイド人工芝等の備品購入を実施し、施設の良好な管理ができた。</p> <p>施設利用者数については、ほぼ計画通りであった。</p>								
	課 題 等	<p>ひばり野運動公園は開園から30年以上が経過し、各施設や設備の老朽化が進んでおり、これまでも補修工事を行ってきたが、大規模改修の必要な箇所がある。スポーツ交流センター、倉石スポーツセンターも老朽化が進んでいるが、財政上から大規模な改修ができないため、計画的な財政措置が必要である。</p> <p>サッカー場の人工芝生化に伴い、3年毎に公認の更新が必要となりそれに係る整備費も必要となってくる。</p> <p>指定管理委託が平成26年度から平成30年度までとなる。</p>								

【施策】

◇ 誰もが気軽に参加できるスポーツ環境づくり

【主な事業】

(1) 町民登山・歩こう会事業

点検	概要	町民を対象にした県内及び隣県での日帰り登山及びハイキングをすることで、自然と触れ合いながら町民の健康増進とスポーツへ取り組むきっかけとしてもらう。		
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・登山参加者 50人 ・歩こう会参加者 100人 	実績	<ul style="list-style-type: none"> ・登山参加者（八幡平畚岳） 28人 ・歩こう会参加者（奥入瀬溪流） 51人
評価	成果	町民登山、歩こう会とも、計画の約半数程度の参加となった。個人では気軽にはできない登山やトレッキングに参加することで町民の健康増進が図られた。参加者からは、町民同士の親睦も図られることから、参加してよかったという声が多く聞かれた。		
	課題等	町民登山、歩こう会とも参加者数の減少と高齢者が多くなっていることからより参加しやすい内容にするなどの検討が必要である。参加者からは毎年継続して開催してほしいとの声が多く、より多くの町民が参加しやすいようにするため、町委託バス等の利用制限も考慮し、県外でなくても町内の豊かな自然を活用して、年に複数回の開催にするなど内容の変更を検討する必要がある。		

(2) スポーツ推進委員事業

点検	概要	町のスポーツの推進のため、熱意と能力のある住民をスポーツ推進委員として町教育委員会が委嘱し、社会体育事業の企画・運営をしてもらう。また、その他の団体のスポーツ行事・事業に協力及び指導助言をしてもらう。		
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・町民運動会・登山・歩こう会の企画運営への参画 ・老人スポーツ大会への協力 ・委員の行事等への延参加者数 80人 	実績	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進員は、町民運動会・登山・歩こう会の企画運営に参画した。 ・老人スポーツ大会への協力をした。 ・委員の行事等への延参加者数68人
評価	成果	スポーツ推進委員は、専門的な知識と行動力で町の事業に参画するなどスポーツの振興に寄与した。		
	課題等	スポーツ推進委員は、事業参加者の安全、けが・発病者の対処等（救急措置、心肺蘇生、AED講習会など）を万全にできるよう、専門的知識、技術の向上が必要であるため、県などで開催する研修会、講習会等により多くのスポーツ推進委員に参加してもらえるようにする必要がある。		

〈分類3〉 スポーツの振興

(3) 生涯スポーツ振興事業等委託事業

点 検	概 要	「町民一人1スポーツ」を奨励することで、心身ともに健康で豊かな生活を送るために生涯スポーツを推進し、誰もが気軽に参加できる各種スポーツ大会や運動教室の実施についての企画、運営を(財)五戸町スポーツ振興公社に委託している。	
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・各種スポーツ大会及び教室への参加者数 3,500人 ・開催スポーツ大会数 10回 ・開催教室数 4回 	実 績 <ul style="list-style-type: none"> ・各種スポーツ大会及び教室への参加者数 3,300人 ・開催スポーツ大会数 9回 ・開催教室数 4回
評 価	成 果	生涯スポーツ振興事業等の委託では、行政では手が回らない部分を委託することで、多彩な大会等が実施され、多数の町民がスポーツに親しむことができた。	
	課 題 等	委託事業として高齢者を対象とした健康づくりを目的としたレクリエーションや各種教室など、もっと気軽にスポーツに参加できる環境づくりが必要である。今後はキッズを対象とした事業も必要である。	

【施策】

◇ 町全体で取り組むスポーツ振興

【主な事業】

(1) 県民駅伝競走大会五戸町実行委員会事業

点 検	概 要	毎年9月第1日曜日に県下全市町村が参加して開催される県民駅伝競走大会に参加するために、町実行委員会を組織し運営費として交付金を交付するとともに、事務局を担当し運営を支援する。	
	計 画	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会の実施内容 選手選考、練習スケジュールの作成と実施、試走会、大会当日の選手サポート ・練習会等回数 40回 ・練習会参加者数 30人
評 価	成 果	<p>実行委員は、陸上の知識のある人材が長年メンバーとなっていることから、通年での練習を行うなど継続的に大会に向けた取り組みができた。</p> <p>中学生、高校生の大会に向けての姿勢は他の模範となり青少年の健全育成に寄与した。</p>	
	課 題 等	<p>新たに実行委員に加わる人材が少ないため、町陸上競技協会と協力して人材の育成や勧誘が必要である。</p>	

(2) スポーツ少年団本部事業

点 検	概 要	スポーツを通じて少年・少女の心身を鍛錬するために、町内のスポーツ少年団を育成指導する、五戸町スポーツ少年団本部に運営費及び事業費に対する補助金を交付するとともに、事務局を担当し運営を支援する。	
	計 画	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の交付 ・登録指導者団員数 391人 ・各種大会参加延べ人数370人
評 価	成 果	<p>スポーツ少年団本部に加入している単位のスポーツ少年団は、計画の人数を上回り、町内での活発なスポーツ活動をすることができた。</p>	
	課 題 等	<p>スポーツ少年団本部は、町内の学校統合等により、単位団の在り方も変わっていくため、年に1回程度は指導者・団員が参加する交流会を開催し、情報交換をもちながら運営及び事業についての見直しの必要がある。</p>	

〈分類3〉 スポーツの振興

(3) スポーツクラブ育成事業

点検	概要	<p>幼児から一般まで幅広い年齢層で、多様な競技を選択できるように地域に根ざした、総合型地域スポーツクラブの育成と、スポーツを通じた町の活性化を目指し、スポーツクラブを運営している（公財）五戸町スポーツ振興公社へ、スポーツクラブ強化事業、指導者育成事業、スポーツ教室開催事業分として補助金を交付する。</p> <p>・スポーツクラブは、サッカー、野球、バスケットボール、ソフトテニス、陸上の5種目となっているが、陸上は、会員がいないため、休止状態となっている。</p>		
	計画	<p>・補助金の交付</p> <p>・クラブ強化事業 14回</p> <p>・指導者育成事業 4回</p> <p>・スポーツ教室・イベント事業 4回</p> <p>・広報活動 2回</p>	実績	<p>・クラブを運営しているスポーツ振興公社へ補助金を交付した。</p> <p>・クラブ強化事業 13回</p> <p>・指導者育成事業 2回</p> <p>・スポーツ教室・イベント事業 7回</p> <p>・広報活動 2回</p>
評価	成果	<p>スポーツクラブ育成事業は、運営組織の（公財）五戸町スポーツ振興公社に町が補助金を交付することで、スポーツ振興公社がクラブ強化事業、指導者育成事業、スポーツ教室開催及びイベント事業、広報活動の4事業を展開し、ほぼ計画どおりの実績となった。中でもスポーツ教室開催等では、新規事業が好評であったため今後も継続して開催していきたい。</p>		
	課題等	<p>スポーツクラブは、陸上競技クラブの会員確保と現クラブ員や指導者の増員対策や事業の充実と拡大を図っていくため、運営主体のスポーツ振興公社と協議しながら進める必要がある。また今後は、その他の競技においても少子化などの影響により同様と思われる。</p>		

(4) スポーツ大会出場祝金事業

点検	概要	<p>小・中学生のスポーツ競技力の向上と支援を目的に、予選を経て東北大会及び全国大会に出場する小・中学生の保護者に対し、出場に際する負担を軽減するため、東北大会出場者へは10,000円、全国大会出場者へは20,000円（合わせた限度額は20,000円）祝い金を支給する。</p>		
	計画	<p>・東北大会 15人</p> <p>・全国大会 3人</p>	実績	<p>・東北大会 0人</p> <p>・全国大会 17人</p>
評価	成果	<p>出場祝金を支給することで、子どもたちが努力して勝ち取った、上位の大会へ出場させるための保護者の負担を軽減することができた。</p>		
	課題等	<p>出場祝金は、団体競技の場合には支給する人数が多く当初予算では把握が難しく補正予算対応となることから、申請を受けてから支給日まで日数がかかる場合が多い。早期に支給できるよう前年度実績並みに当初予算に計上できるよう、財政担当課への要望が必要である。</p>		

〈分類3〉 スポーツの振興

(5) 町民運動会事業

点検	概要	町民の健康増進や親睦を図るために、全町内で自治会または地区ごとにチームを作り、子どもから老人までが参加できる競技で1日楽しむ、全町をあげたスポーツイベントとなっている。		
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・参加チーム数 14チーム ・延参加選手数 1,600人 	実績	<ul style="list-style-type: none"> ・参加チーム数 14チーム(13の自治会と地区及び三沢基地アメリカ海軍の全14チームが参加) ・延参加選手数 1,600人
評価	成果	<p>45回目となる町民運動会は、町内の全地区が参加し、スポーツを通じて地域の結団と親睦を図ることができた。</p> <p>三沢基地所属のアメリカ海軍チームを特別招待することで、国際交流の推進が図られた。</p>		
	課題等	近年は、参加者の減少により選手の確保が難しくなっているチームが多くなってきている。現在の運動会形式で継続するとすれば、開催時間、競技種目の内容、競技数等を少しでも町民が参加しやすいように検討する必要がある。		

○ 総合的評価・・・・・・・・スポーツの振興

◆ **利用しやすいスポーツ施設の整備**としては、本町のスポーツ活動は、ひばり野公園とその関連施設及び倉石スポーツセンターを拠点としており、これらをあわせて年間に約110,000人が施設を利用している。このことは、比較的利用しやすい施設となっているのではないかと考えられる。さらにサッカー場が人工芝生化となり、県内でも有数の施設を町民が気軽に利用できる環境となっている。一方で、様々な施設の老朽化による維持管理費の増大という問題を抱えており、計画的な管理が必要となっている状況にある。

◆ **誰もが気軽に参加できるスポーツの環境づくり**としては、町民登山や歩こう会などの教育委員会が主催する事業は、スポーツ推進委員の協力で初めての人や一人だけでも楽しく参加できる体制となっており、健康志向の高まりから人気のある事業となっている。この事業を更に多くの町民が参加しやすいようにするため、県外でなくても町内の豊かな自然を活用し、年に複数回の開催にするなど内容の変更も検討する必要がある。また、例年多くの参加者となっているが、参加者によるサークルなどの組織結成が成されやすい仕組みを検討する必要がある。また、委託事業の生涯スポーツ振興事業は、高齢者や子ども達が参加しやすいスポーツの種目や参加者の送迎についての検討をするなど、新たな参加者層を掘り起こす必要がある。

◆ **町全体で取り組むスポーツ振興**としては、各方面のスポーツに取り組む町民に対して、様々な形で支援を行っているが、マンネリ化し裾野の広がりにつながっていないものもあり、それぞれの事業について目的を踏まえた更なる検証が必要である。

〈分類4〉 地域が主体となるひとづくりの推進

地域コミュニティ内の連帯や、家庭・学校との連携を深め、子どもを取り巻く社会が一体となつての「ひとづくり」を目指します。

【施策】

- ・地域コミュニティの強化による地域教育力の向上・・・P27
- ・町民の社会参加機会の拡大・・・・・・・・・・P28
- 総括的評価・・・・・・・・・・P29

〈分類4〉 地域が主体となる人づくりの推進

【施策】

◇ 地域コミュニティの強化による地域教育力の向上

【主な事業】

(1) 放課後子ども教室推進事業

点 検	概 要	<p>子どもたちの安全な居場所が少なくなっていることから、小学生が放課後や週末等に町立公民館を利用して地域住民の参画を得て、子どもたちにとって安全な活動拠点をつくり、スポーツや文化活動を行いながら地域住民との交流を通じて心豊かでたくましい子どもたちを育む環境を作るために「子どもあそびの広場」を開設する。広場は、毎週水曜日と金曜日の放課後及び概ね月1回土・日曜日に町立公民館等で開催する。</p>		
	計 画	実 績	<p>・申込児童数 30名。 ・日数開催は平日 87日、土曜日 8日、計95日。 ・放課後子どもプラン運営委員会開催 2回</p>	
評 価	成 果	<p>放課後の時間を利用し、年齢の異なる子どもたちが一緒に工作、料理、農作業、アウトドア体験をするなど、地域の方々の協力により、様々な体験をすることができた。参加者の保護者からも好評を得ている。</p>		
	課 題 等	<p>予算面では、補助金の減少に伴い年々町負担分が増えている。 また、スタッフ数、安全面、実施場所の広さ、内容の充実度等から、定員を25名と定めて実施している。参加者は、定員を超えた申込みがあった場合は抽選を行って選定している。スタッフは、すべての申込み者を受け入れたい気持ちはあるが、定員25名はくずす事が出来ないというジレンマに陥っている。現状としては、公民館以外に適当な場所は無く、スタッフの増員や、プログラムの変更などして、申込者全員をうけいれる方法を考えていく必要がある。</p>		

〈分類4〉 地域が主体となる人づくりの推進

【施策】

◇ 町民の社会参加機会の拡大

【主な事業】

(1) 成人式事業

点 検	概 要	二十歳になる新成人の町民を対象に式典と祝賀会を行う。 式典と祝賀会の企画運営は、新成人の人たちが自ら実行委員会を組織して行う。		
	計 画	・新成人の参加率 70%	実 績	・新成人の参加率 74% ・新成人対象者231人中171人が参加
評 価	成 果	成人式は、新成人が実行委員会を組織して企画・運営することで、自らも郷土の一員だという意識の高揚を図った。		
	課 題 等	実行委員がなれていないことから式や祝賀会の企画は、例年同じ内容となっている。ただ、実行委員本人らは、結果をふまえて自分たちの企画を評価するものではないので、企画内容と実行委員の進め方等を事務局で検証する必要がある。		

(2) 文化賞・スポーツ賞事業

点 検	概 要	町の芸術文化の分野において、優れた創作活動を行っている個人または団体に対し「文化功労賞、文化賞、文化奨励賞」を、また町の体育・スポーツの振興発展への功績及びスポーツ大会において優秀な成績を収めた個人または団体に対し「スポーツ功労賞、スポーツ賞、スポーツ奨励賞」を授与する。		
	計 画	・文化功労賞 2人 ・文化賞 25人 ・文化奨励賞 50人 ・スポーツ功労賞 2人 ・スポーツ賞 25人 ・スポーツ奨励賞 50人	実 績	・文化功労賞 2人 ・文化賞 2人 ・文化奨励賞 34人 ・スポーツ功労賞 1人 ・スポーツ賞 19人 ・スポーツ奨励賞 18人
評 価	成 果	文化賞・スポーツ賞は、毎年4月に開催する五戸町教育大会で表彰し、その内容が町の広報紙に掲載されることで、町民に広く活躍を知らせることができた。		
	課 題 等	賞の表彰は、翌年度4月の教育大会で行うため、高校3年生の場合は卒業していることから、表彰式に参加できない場合が多い。 また、団体で収めた成績に対し、個人名で表彰しなくてもよいのでは。		

〈分類4〉 地域が主体となる人づくりの推進

○ 総括的評価・・・地域が主体となる人づくりの推進

- ◆ **地域コミュニティの強化による地域教育力の向上**として、放課後子ども教室推進事業を実施している。これは、放課後の時間を利用し、年齢の異なる子どもたちが一緒に工作、料理、農作業、アウトドア体験を地域の方々の協力により様々な体験をすることができるため、参加者の保護者からも好評を得ている事業であるが、スタッフ数、安全面、実施場所の広さ、内容の充実度等から、定員を 25 名と定め募集しているが、定員を超える応募に対して対応が難しい状況であるため、多くの参加希望者を受け入れられる方法を検討する必要がある。
- ◆ **町民の社会参加機会の拡大**としては、成人式については、新成人で組織する実行委員会の企画運営により実施しているが、実行委員会のメンバーが、もっと主体的に取り組み、事業終了後に充実感、達成感を育めるようなものとなるよう方法を検討する必要がある。

〈分類5〉 歴史・文化の継承

祖先から未来に伝える貴重な遺産である文化財や伝統文化を効果的に保存・継承していくとともに、その利活用の可能性を検討し、積極的な利用を図ります。

【施策】

- ・歴史・文化資源の把握・・・・・・・・・・・・・・・・P31
- ・歴史・文化資源の効果的な保存・継承・・・・・・・・P32
- 総括的評価・・・・・・・・・・・・・・・・P34

【施策】

◇ 歴史・文化資源の把握

【主な事業】

(1) 遺跡試掘調査対策事業

点 検	概 要	開発行為に伴い、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）照会に対し、事業予定地が埋蔵文化財包蔵地であった場合は、町が試掘調査を行い、遺跡の概要を把握する。		
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・遺跡照会数 20件 ・試掘調査数 3件 	実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・遺跡照会数 24件 ・試掘調査数 0件
評 価	成 果	遺跡発掘調査対策は、文化財保護法で求められている遺跡保存に最も重要な対策の1つであり、開発事業者へ周知することができた。		
	課 題 等	遺跡発掘調査対策として、無許可の開発が実施されないように文化財保護法の規定を周知徹底する必要がある。		

【施策】

◇ 歴史・文化資源の効果的な保存・継承

【主な事業】

(1) 伝統芸能継承活動事業

点検	概要	小学生に対し、伝統芸能に触れる機会をつくとともに、継承活動を進めていくために学校で行う伝承活動について、指導者への謝金や道具の修繕などの支援をする。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・指導回数 65回 ・発表回数 4回 	実績 五戸小学校の児童が和太鼓（五戸太鼓）、神楽、えんぶりの各クラブが、通常は月2回程度、長期休暇等は月4回程度の活動を行っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・指導回数 54回 ・発表回数 5回
評価	成果	伝統芸能継承活動は、小学生の伝統芸能への理解や後継者育成に寄与した。各種祭りや芸能発表会等に参加することにより、伝統芸能の普及発展に寄与した。	
	課題等	継承活動への参加児童が減少しているため、学校と連携して参加児童数の増加に努める必要がある。	

(2) 県重宝「旧圓子家住宅」管理事業

点検	概要	青森県重宝に指定されている「旧圓子家住宅」の管理及び見学者への公開を行うことにより、文化財保護への理解を深め、五戸町の歴史を後世に伝えていく。	
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・管理実施日数 30日 ・見学者数 100人 	実績 <ul style="list-style-type: none"> ・管理実施日数 30日 ・見学者数 48人
評価	成果	旧圓子家住宅の見学者数が計画を下回ったが、町民の郷土史理解の深化に寄与した。	
	課題等	旧圓子家住宅は、今後修繕等が必要になることが予想されるため、適正な管理が求められる。 入館者数の増加のため、関係機関と協力して周知を図る必要がある。	

〈分類5〉 歴史・文化の継承

(3) 町文化財管理事業

点 検	概 要	町所有の文化財の保存を行うとともに、未整理の埋蔵文化財の整理作業を行い、町内の歴史の把握を行う。	
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財等整理数 15箱 ・町有文化財環境整備回数 3回 	<p style="text-align: center;">実 績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋蔵文化財等整理数 15箱 ・町有文化財環境整備回数 6回 (草刈・支障木伐採)
評 価	成 果	<p>町文化財の整理等により、町民及び県内外の関係者への五戸町の歴史理解に寄与した。</p> <p>町天然記念物「奥州街道のアカマツ」周辺支障木を伐採することで、樹勢の回復がなされた。</p> <p>埋蔵文化財、写真等資料の貸出により五戸町管内の文化財の魅力を発信することができた。</p>	
	課 題 等	<p>未整理の文化財が多数あるため、今後も継続的に事業を実施する必要がある。</p> <p>天然記念物（樹木）については、定期的に枝折れ、倒木等の危険がないか確認する必要がある。</p>	

○ 総括的評価・・・・・・・・歴史・文化の継承

- ◆ **歴史・文化資源の把握**としては、遺跡発掘調査対策で無許可の開発がなく、埋蔵文化財の保護が図られている状況にあり、今後も無許可開発の防止のための周知徹底を継続していく必要がある。
- ◆ **歴史・文化資源の効果的な保存・継承**としては、小学生に対して行う伝統芸能継承活動は、町民から好感を持って評価されているが、参加児童の減少が見られることから、学校と連携しながら取り組みを行っていく必要がある。また、旧圓子家住宅及び町文化財の管理については、町の歴史を継承するために文化財のPRに努め、町民の文化財に対する理解と関心の高まりを大きくしていく必要がある。年度末には五戸町の文化財の展示公開施設の開設に向けた準備事業を推進することとなり、より良い施設の建設に向け組織する準備委員会を中心に活動を活発化する必要がある。

〈分類6〉 芸術文化の振興

町民が芸術文化に触れる機会を拡大し、興味・関心を育てるとともに、芸術文化に関する情報を必要に応じて得ることができるよう、情報収集と提供の体制づくりを進めます。

また、芸術文化に関する団体や活動を幅広く支援し、町民の自由な自己表現、自己実現の場を提供します。

【施策】

- ・ 芸術文化に親しむ機会の拡大・・・・・・・・・・・・・・・・P36
- ・ 芸術文化活動の支援・・・・・・・・・・・・・・・・P37
- 総括的評価・・・・・・・・・・・・・・・・P38

【施策】

◇ 芸術文化に親しむ機会の拡大

【主な事業】

(1) 産業と文化まつり事業

点検	概要	文化活動を行っている団体、個人が、発表の場として、「産業と文化まつり」の文化部門として公民館及び五戸ドームでの作品展示及び公民館でのステージ発表を行う。		
	計画	・参加団体数 50団体	実績	・参加団体数 49団体
評価	成果	文化まつりは、町民の日ごろの活動成果を発表できる貴重な機会であり、町民の文化活動に親しむ機会を提供できた。計画参加数を下回ったものの、昨年度の参加数を上回り、町の活動の活性化に繋がった。		
	課題等	文化まつりに使用するパネル、テーブルなど道具の数の調整に難航したため、出店団体との綿密な確認をする必要がある。申込みのさらなる増加に向けて、協力体制を強化していく。		

(2) 町民文化講演会事業

点検	概要	町立公民館で講演会や演奏会などを実施することで、町民が芸術文化の関心を高めるとともに豊かな感性を育む機会を提供する。		
	計画	<ul style="list-style-type: none"> ・自衛隊音楽隊音楽会 ・サマーコンサート <li style="padding-left: 20px;">クラシック音楽を楽しむ会 ・津軽人形劇「金多豆蔵」 ・スプリングコンサート <li style="padding-left: 20px;">ターンバック他 入場者総数 1,400人	実績	<ul style="list-style-type: none"> ・大湊海上自衛隊音楽隊演奏会 (6月21日) 400人 ・サマーコンサート (8月9日) 100人 ・津軽人形劇「金多豆蔵」 (9月12日) 160人 ・スプリングコンサート (3月9日) 300人
評価	成果	大湊海上自衛隊音楽隊演奏会では今年度初めて「ロビーコンサート」も開催した。小中学生も多く関心をもって鑑賞し身近に生の演奏を聴く機会を提供できた。多くの町民も来場、好評であった。自衛隊の演奏会を楽しみにしている町民も多く、継続して要望していきたい。 今年度よりクラシック音楽を楽しむ会による「サマーコンサート」も公民館の共催事業となり、より一層芸術文化の関心を高める機会を提供できた。		
	課題等	町民からは、コンサートや著名人の講演の要望等があるが、少ない予算内でできるだけ多くの町民が楽しめるもの等の実施を求められ難しい状況である。機会をとらえアンケートなどによる要望を把握し、検討する必要がある。		

【施策】

◇ 芸術文化活動の支援

【主な事業】

(1) 町文化協会支援事業

点 検	概 要	町文化協会の事務局を町立公民館で担当して、協会運営と文化団体の事業の推進を図るとともに、町の芸術文化団体相互の交流などの活動を支援するために、町文化協会へ町補助金を交付する。		
	計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・文化協会加入団体数 50団体 ・産業と文化祭り参加数 20団体・個人 ・芸能発表会参加数 20団体・個人 ・町補助金の交付 	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">実 績</td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・文化協会加入団体数 39団体 ・産業と文化祭り参加数 12団体・個人 ・芸能発表会参加数 12団体・個人 ・町補助金を交付 </td> </tr> </table>	実 績
実 績	<ul style="list-style-type: none"> ・文化協会加入団体数 39団体 ・産業と文化祭り参加数 12団体・個人 ・芸能発表会参加数 12団体・個人 ・町補助金を交付 			
評 価	成 果	補助金の交付及び事務局を担当することで、視察研修の実施や発表会への参加などができ、町の文化団体組織の活性化と芸術文化が図られた。		
	課 題 等	支援は、五戸町文化協会を対象とした事業であるが、文化協会に加入していないで文化・芸術活動をしている町民もいることから、町の芸術文化の振興のためには文化協会以外の活動に対してのアプローチも検討する必要がある。		

○ 総括的評価・・・・・・・・芸術文化の振興

◆ 芸術文化に親しむ機会の拡大及び芸術文化活動の支援としては、文化団体の活動発表の場の提供やコンサートと文化協会への補助金を交付しているが、活動が現状維持にとどまっている団体が多く、また文化協会に加入していないで文化・芸術活動をしている町民もいることから、町の芸術文化の振興のためには、文化協会以外の活動に対するアプローチと支援も検討する必要がある。